大供本町遺跡 (鹿田小) 遺跡の発掘調査

岡山市教育委員会

平成 28 年 7 月 30 日 (土)

はじめに

大供本町遺跡は現在の旭川西岸に位置する遺跡です。遺跡の東側には鹿田遺跡、さらに新道遺跡が分布しており、古来は旭川の河口部に立地していました。またこれらの遺跡は、藤原氏宗家の所領「殿下渡領」の一つに数えられる「鹿田庄」との関連が深く、そのため古代から中世にかけての遺構や遺物が数多く検出されています。

大供本町遺跡の発掘成果

過去の調査を含めこれまで明らかにされている内容を整理します。古い時期の遺構では 8 ～ 9 世紀の井戸や建物がみつかっており、それらは基本的に正方位を向いて築かれます。ここでさらに、鹿田庄に推定される遺跡内では、正方位とは異なる方位 (北より若干東に振る) に、条里プランが広がるといったことが明らかにされています。遺跡を調査しますと、この方位を合わせた 10 世紀段階の溝があり、文献と照らし合わせて考えても、平安時代の 9 世紀段階に斜め方向の地割が施工されたことが想定されます。また、時期が下って中世の室町時代になると、大型化した溝 (濠) に囲まれた居館跡や、その周囲に横長で東西方向を意識した短冊形の町割の登場をみることができます。

荘園遺跡と言いますと、米づくりを主体としたイメージが浮かび上がりますが、大供本町遺跡の調査からは鹿田庄が当初、海上・河川の交通や流通といった要所をおさえることを目的に開発され、時代を追うごとに発展・拡大していくといった流れがたどれます。

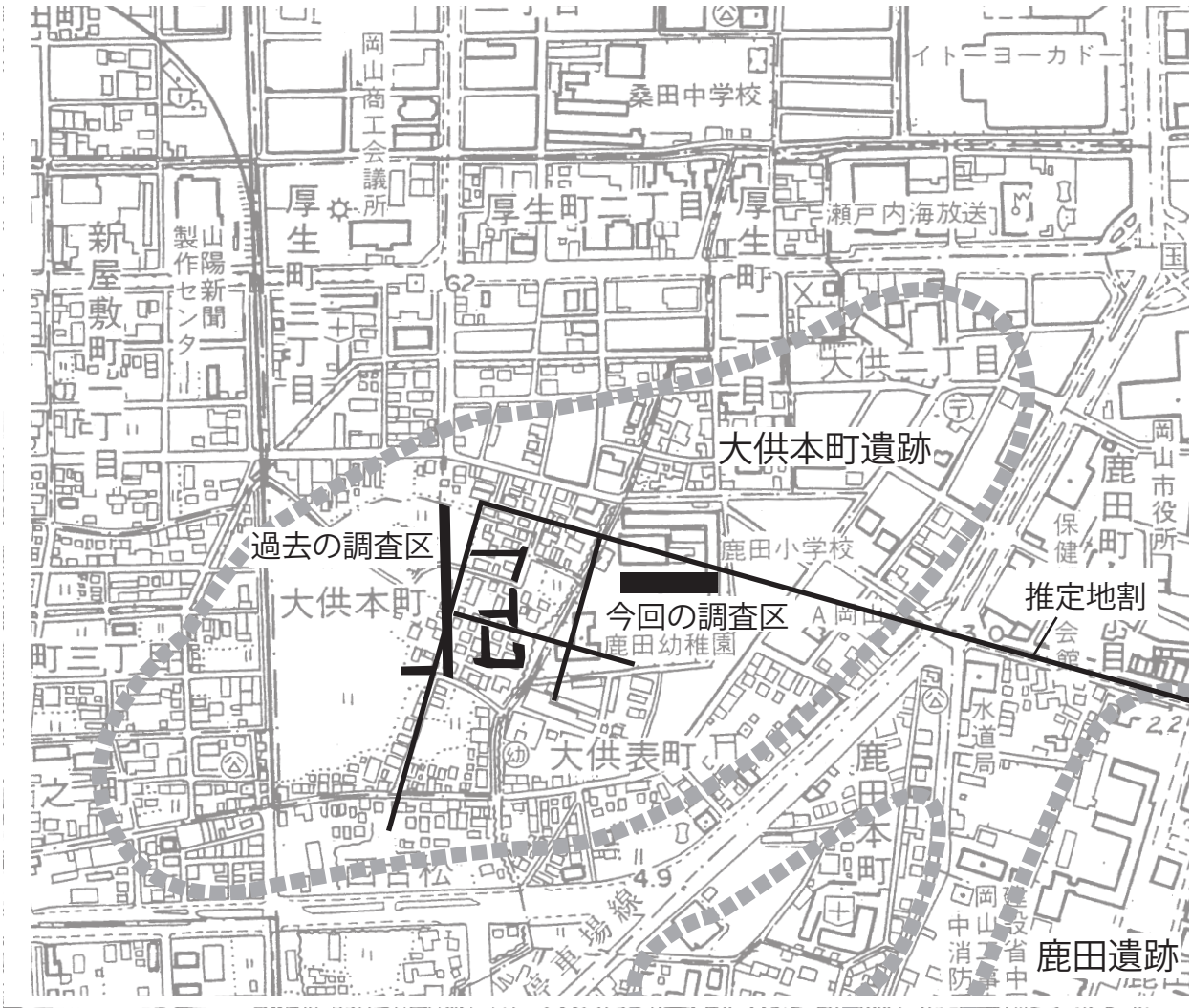

図 1　調査区の位置と周辺地図

今回、鹿田小学校校内の発掘調査区全体では、後世の造成や攪乱の影響が著しく、そのため遺構や遺物の残り具合は必ずしも良好といえるものではなくなっています。ただその中で、遺構は井戸や溝、建物跡となる柱穴群が検出され、遺物をみても輸入陶磁器である青磁や白磁の破片、中国銭が出土するなど、遺跡内における当時の人々の生活の一端をうかがい知ることができます。

参考文献

岡山市教育委員会　2007・2009・2011「大供本町遺跡」『岡山市埋蔵文化財センター年報』6・8・10

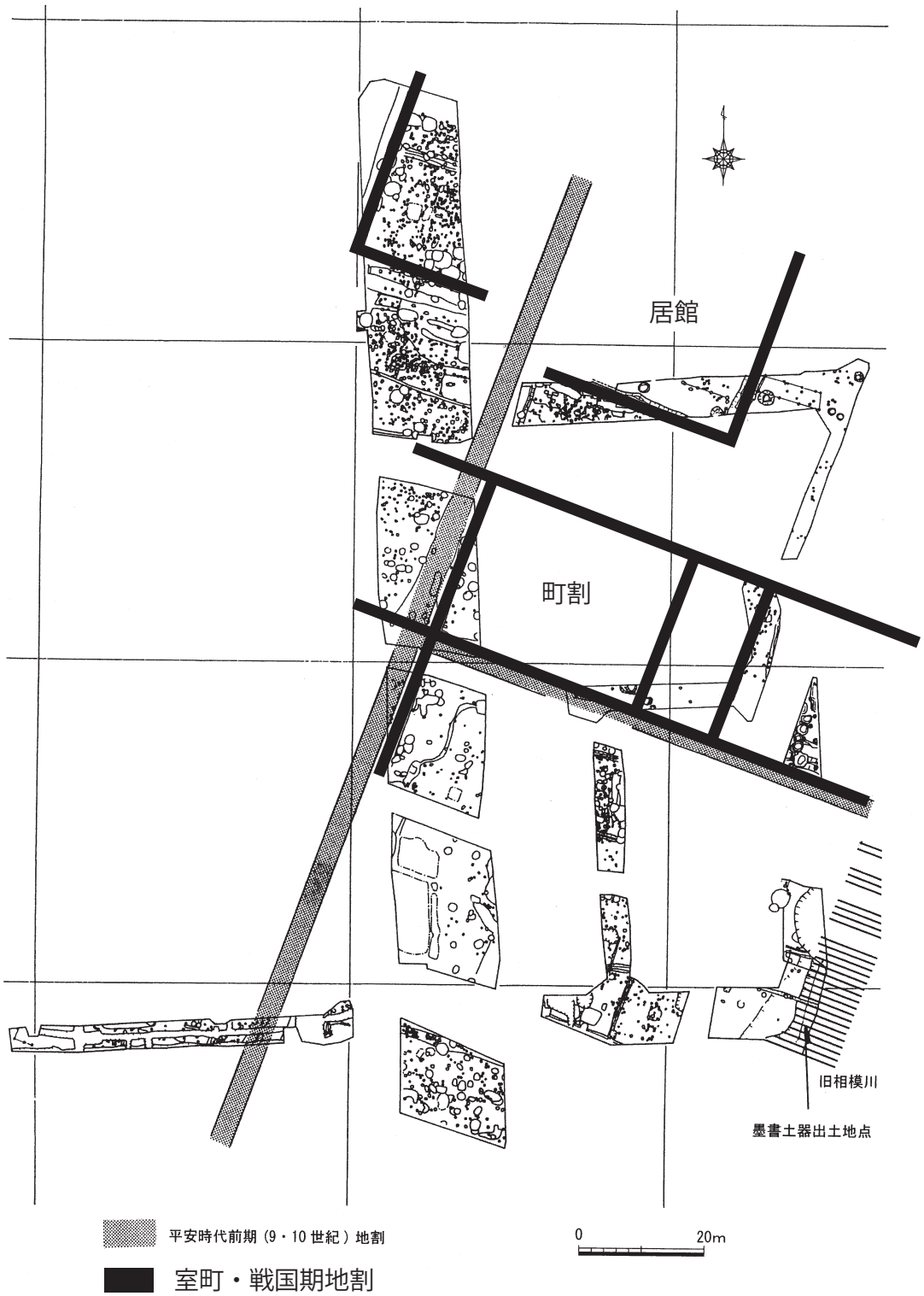

図２　第１～４次調査全体図

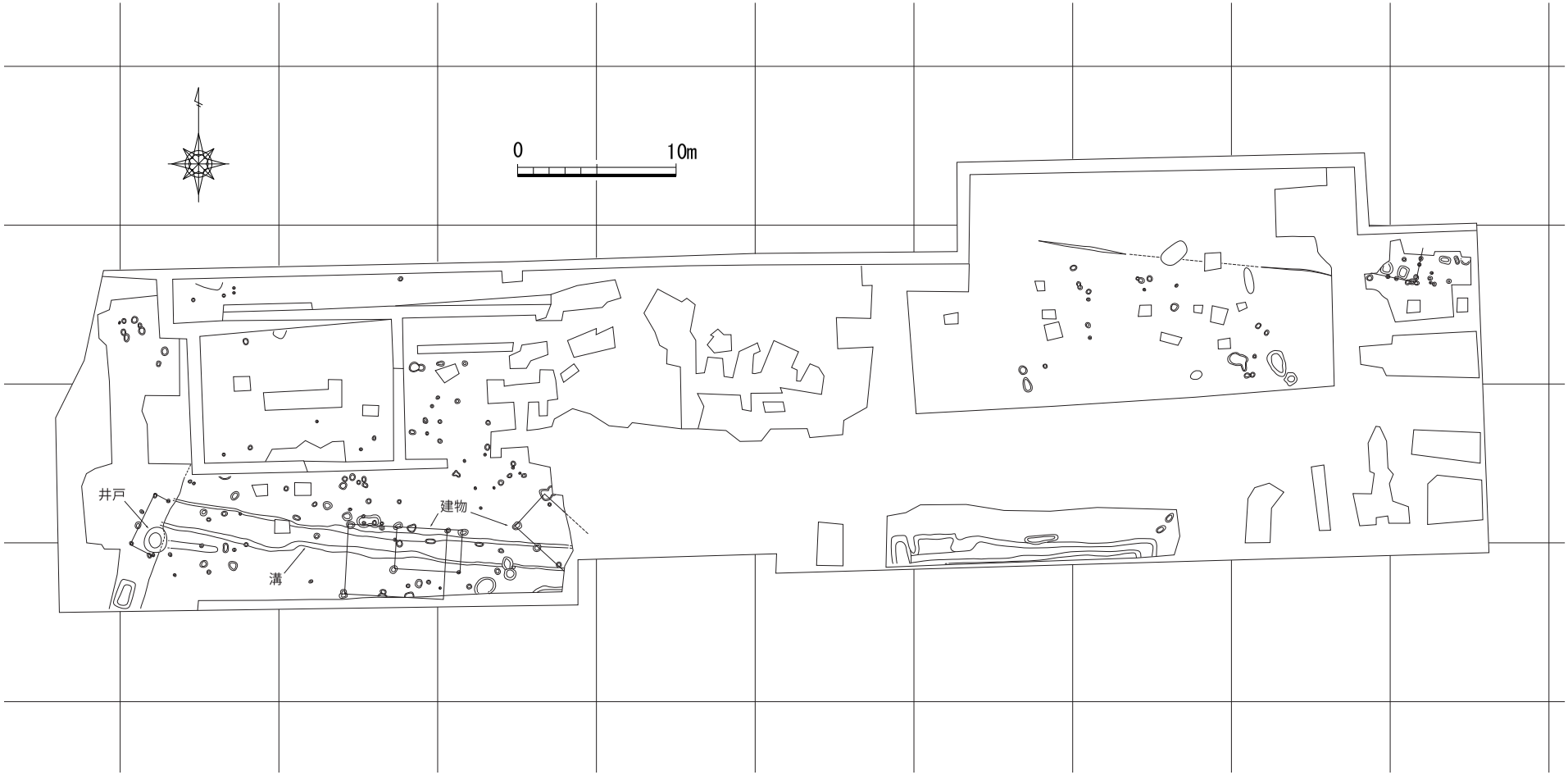

図３　大供本町（鹿田小）遺跡　遺構配置図